

# わたしの聖戦

女性が働くということ

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

連 248 載

## 未来はSF、それともホラー？

今はすっかり馴染んでいるけれど、少し前までは当たり前ではなかった。そういう類のものが結構あることに改めて気づいた。

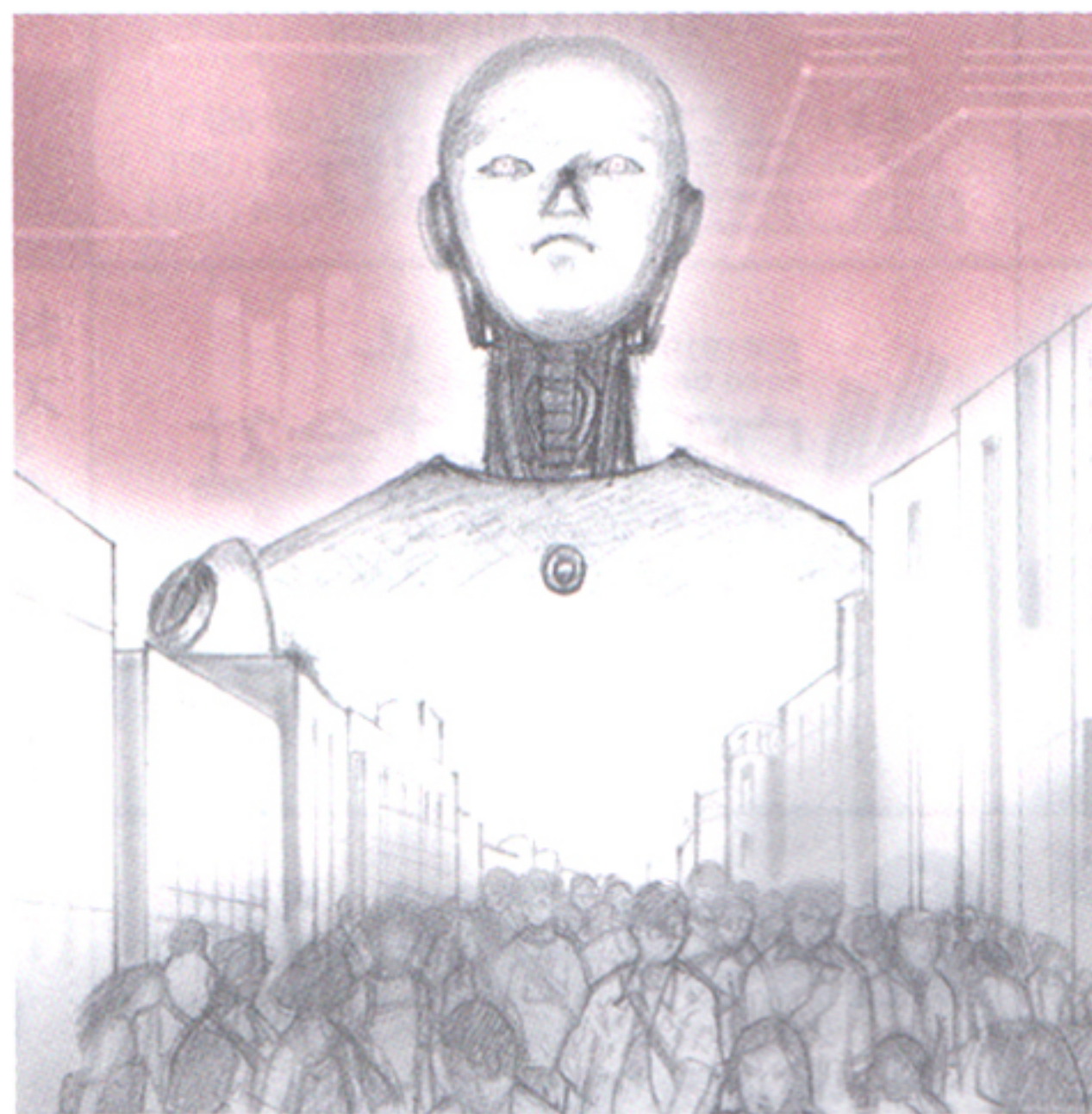
まずは、なんとといってもスマホだろう。街を歩くとよくわかるが、老若男女問わず多くの人が一心不乱にスマホの画面に見入っている。たまに電車の中で文庫本などを開いている人の姿をみると、わけもなく「おお！」と軽い感動を覚えてしまう。その他、人工授精やがんの予防的治療などの医療系もしかり。予防的治療の一例として、遺伝子検査で乳がん罹患する確率が高いこ

とが判明すれば、がんになる前に乳房を切除するという行為が認められている。しかも一部保険も効く。がんになるかどうかの遺伝子検査の判断は、あくまで確率論の上に成り立っており、がんにかからないこともあり得るのだが、始終がんの恐怖にさらされるよりはよほど精神的に楽だという患者の切実な思いが尊重された結果といえる。最近では、生成系AI（人工知能）が世を惑わせている。質問項目を入力すれば、即座にAIによる模範的回答が送られてくる、という代物。学生たちがレポートや論文を書くときの必須アイテ

ムとなるかもしれないのだ。しかも「コピペ」（コピー&ペースト）より罪悪感が薄く、それを見破るのはまず不可能だといわれている。

一昔前、読書感想文などの夏休みの宿題を親に手伝ってもらった人もあ

プからジョンレノンの声を抽出し、ビートルズの新曲として発売される、とのニュースが流れ、話題となった。



生成系AIについては、積極的に活用すべきという意見と、著作権など問題が大きいので何等かの規制をかけるべきといった慎重派の意見があるが、どのみちいったん便利なものを手に入れたら、元に戻ることはまず難しい。科学技術が倫理や道徳を置き去りにしてどんどん進められていくのを歴史上経験してきた過去を思うと、慎重派の声はいずれかき消されていくことだろう。

何が正しくて何が悪いのか、明確なボーダーラインが引けなくなっている。そんな傾向に漠然とした不安を抱いていたと

ったと思うが、幸か不幸か親よりもずっと頼りになる存在が簡単に入手できるところになった、ということになる。

文章のみならず、画像や音楽などのコンテンツ作成も可能だ。先頃はAIを使って古いデモテ

その見極めは誰がするのか。ひよっとしてAIが？

だとしたら、もはやSFというよりホラーである。

イラスト・伊藤香澄